

京都お散歩凸凹地図

地形から見える新しい京都

ふと京都観光をしようと思い、京都に関する本をネットで検索してみると、数えきれないほどの本がヒットする。しかし目につくのは、寺社仏閣などの観光地や京都の歴史に焦点を当てて紹介するといった方向性のものばかり。そういった本に物足りなさを感じている人もいるのではないだろうか。そこで変わり種の京都本を探している人におすすめの本として、地形という視点で京都を紹介している『京都お散歩凸凹地図』を紹介しよう。

まず最初に注目したいのが、冒頭の地図・地形のスペシャリストたち3人の座談会だ。京都の地形が町の形成にどのような影響を及ぼしたかといったトピックを中心に、歴史的な事実も交えた考察がいくつも展開されている。その中でも興味深いのは、京都の千年にも及ぶ繁栄には「鴨川の扇状地における湧水によって容易に水が得られる」ことや、「土地の緩やかな勾配により排水にも都合が良い」ことが関係しているのではないかという話だ。この座談会には他にも地形と土地利用の関連を考えるヒントが満載で、今までなんとなく眺めてきた地図も新しい視点で見ることができるようになるだろう。

そして本書の目玉である京都の散歩道紹介へと内容が移るが、座談会の後に読むことで、散歩道周辺の地形について自分なりに考察を深めることができ面白く読める。取り上げられている散歩道は哲学の道など、京都巡りでは定番のものが中心で、その意味では確かに新鮮味はない。しかしここでは、散歩の所要時間といった基本的な情報の他に、散歩道を実際に歩くと見えてくる情景が臨場感あふれる文章で表現されており、実際に自分でも歩いてみたいと思わせてくれるのだ。さらに、散歩道のルートがこの本のタイトルにもある「凸凹地図」の上にも描かれているのも際立った特徴だ。凸凹地図とは土地の起伏を立体的に表現した地図で、その中に散歩道内の各スポットの標高も載っているため、地形のイメージをつかみやすい。

この本を参考にしながら実際に京都の町を歩いてみると、目にしているものと地形の関連についてあれこれ想像が膨らみ、行き慣れた場所であっても全く違って見えてくる。ありきたりな内容の京都本に飽き飽きしている人はぜひ手に取ってほしい。そして、地形に思いをはせながら一味違う京都観光を楽しんでみてはいかがだろうか。



『京都お散歩凸凹地図』

編者・出版社：実業之日本社

定価：1,300円+税